



月2回のお米



コメ市場に関する情報がここに凝縮されています。
毎月第2・第4木曜日 夕方発行

新潟コシヒカリ下押し中

発行日 : 2020/8/21

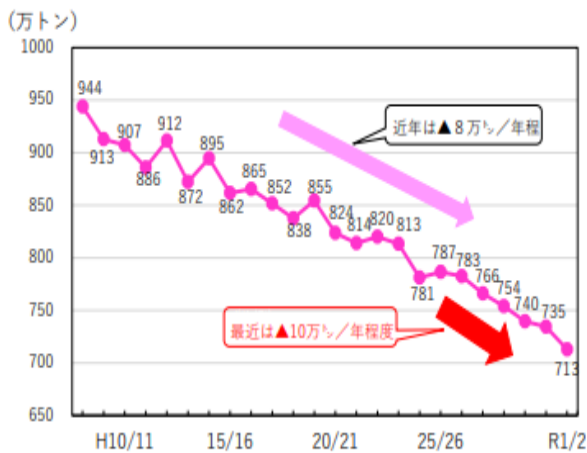


TOPICS 日本のコメ需要の減少傾向は継続・販売価格は堅調に推

農林水産省の『米をめぐる状況について7月号』によれば、主食用米の全国ベースの需要量は一貫して減少傾向にあるという。最近では人口減少等を背景に年10万トン程度に減少幅が拡大。

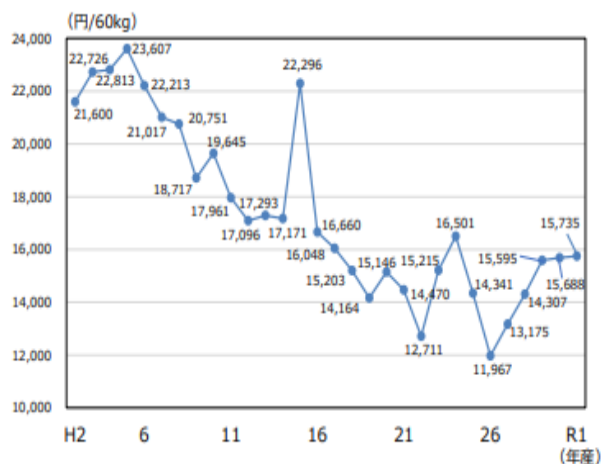
一方、米の販売価格は長期的に低下傾向で推移しているが、近年は堅調に推移している。

【主食用米の需要量の推移】



資料：農林水産省「米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針」

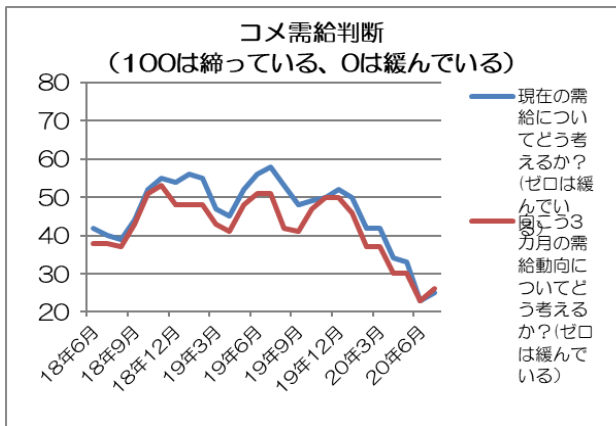
【米の販売価格の推移】



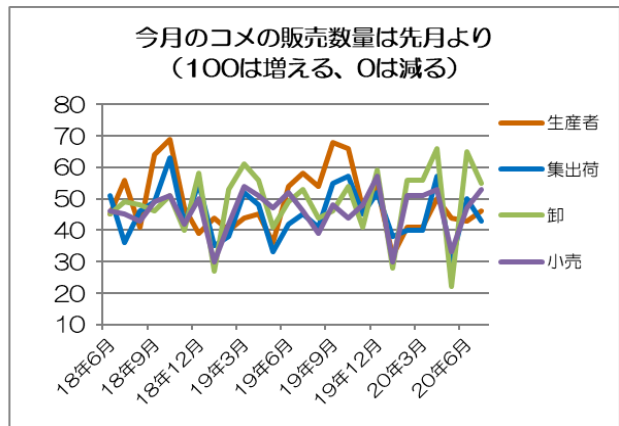
資料：(財)全国米穀取引・価格形成センター入札結果、農林水産省「米穀の取引に関する報告」
注1：平成2～17年度までは(財)全国米穀取引・価格形成センター入札結果を元に作成。
注2：平成18年度以降は出回り～翌年10月(令和元年度は令和2年6月まで)の相対取引価格の平均値。
注3：センター価格は、銘柄ごとの落札数量で加重平均した価格であり、相対取引価格は、銘柄ごとの前年度検査数量ウェイトで加重平均した価格である。

TOPICS コメマンスリーレポートによる需給DI

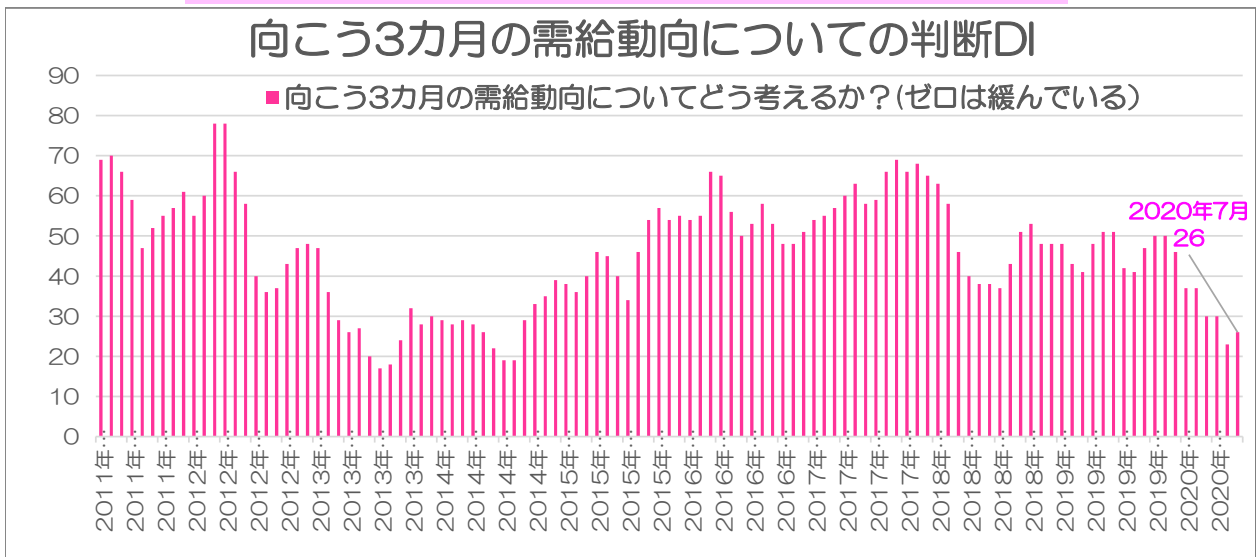
7月のコメの需給は緩んでいる



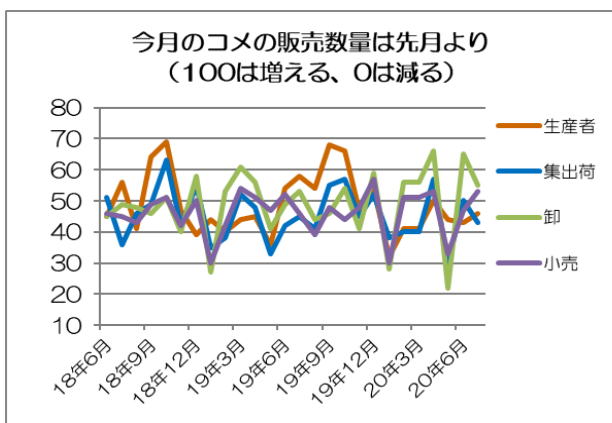
7月のコメの販売数量は6月と横ばい



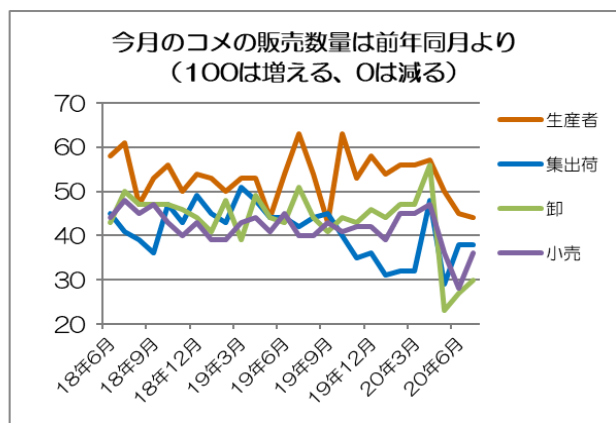
コメの需給は緩んでいると思う人が徐々に多くなっている



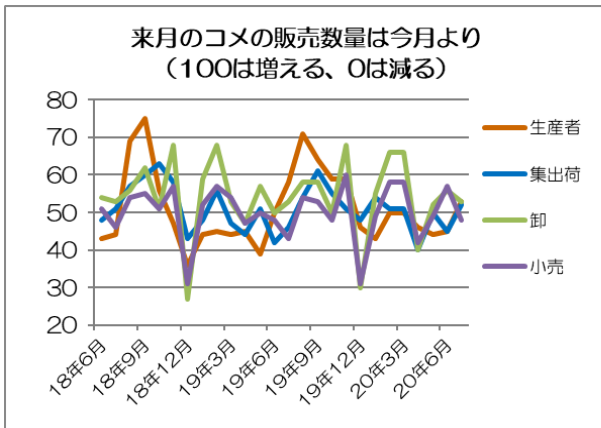
7月のコメの販売数量は減少している



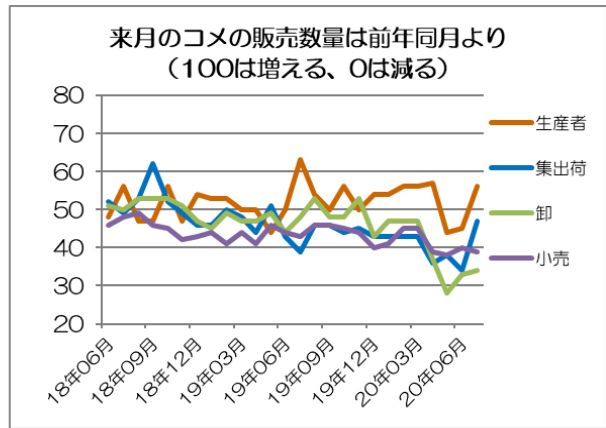
7月のコメの販売数量は昨年7月より少ない



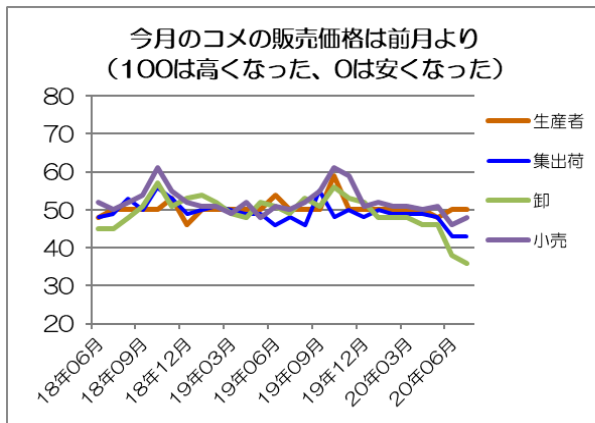
8月のコメの販売数量は7月と同じ



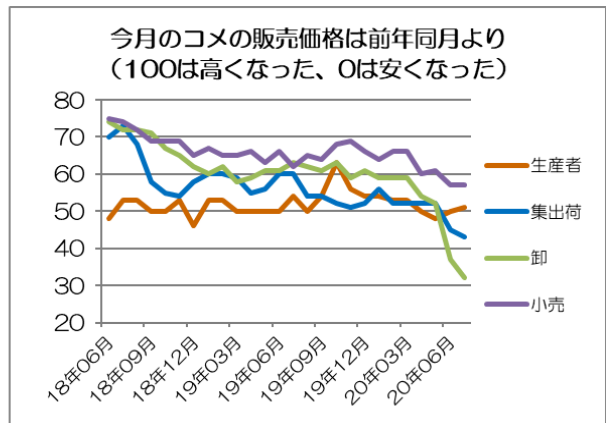
8月のコメの販売数量は昨年8月と
ほぼ同じか少ない



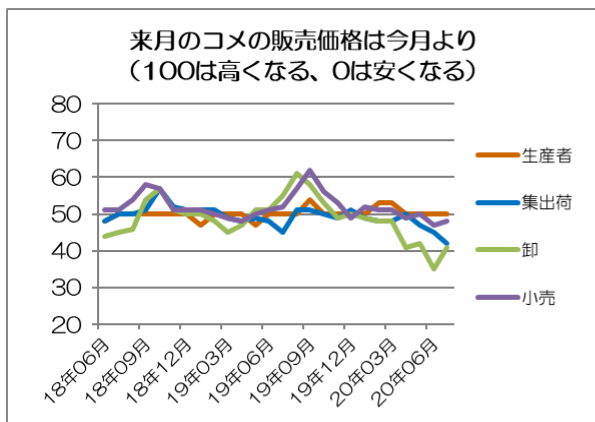
7月のコメの販売価格は6月より安い



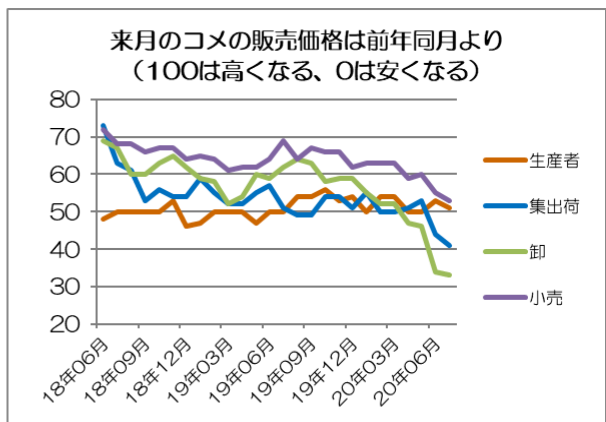
7月のコメの販売価格は昨年7月より安い



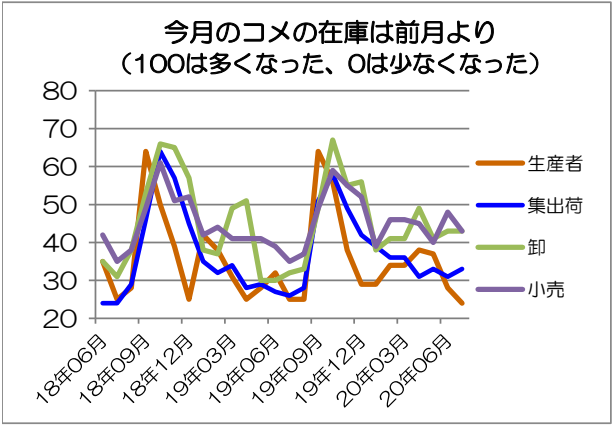
8月のコメの販売価格は7月より安い



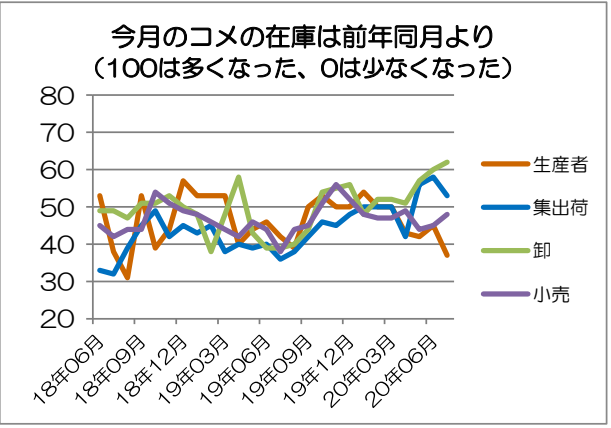
8月のコメの販売価格は昨年8月より安い



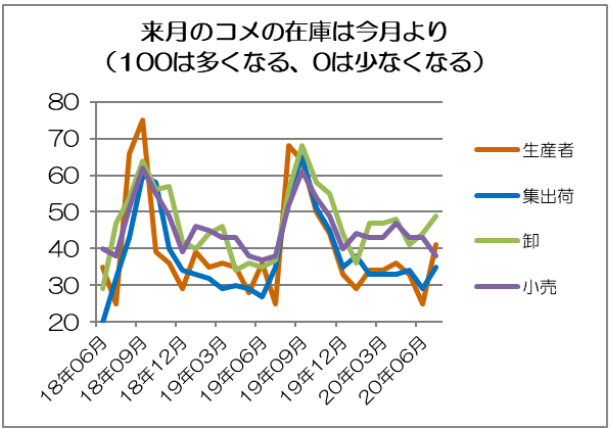
7月のコメの在庫は6月より少ない



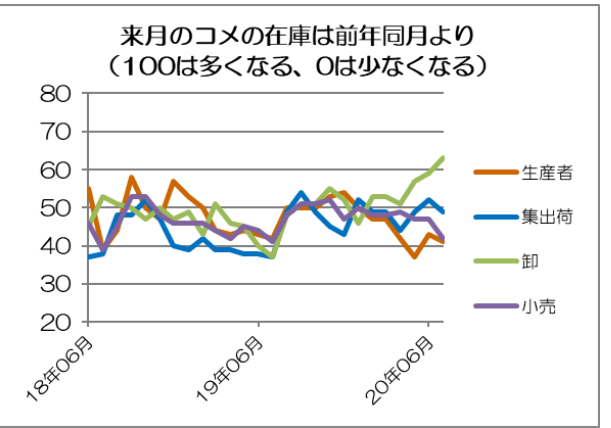
7月のコメの在庫は昨年8月より多い
(生産者は少ない)



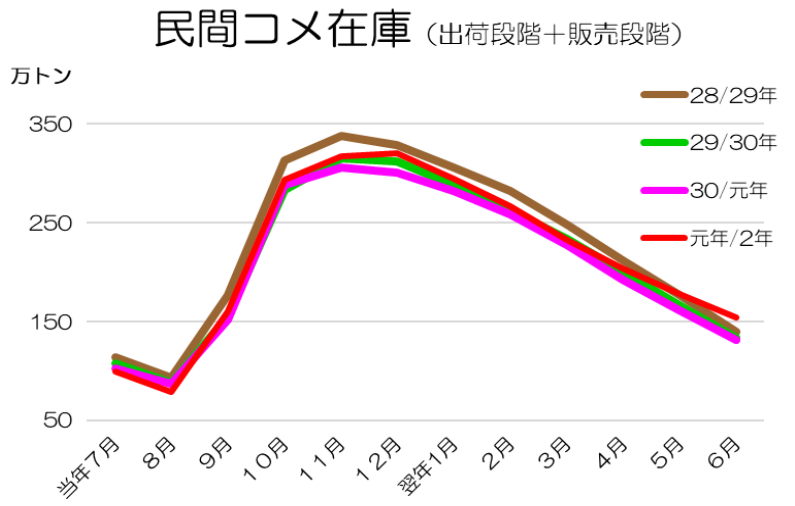
8月のコメの在庫は7月より少ない



8月のコメの在庫は昨年8月より少ない
(卸売りは多い)



TOPICs 民間コメ在庫は過去5年平均を上回る



農林水産省がまとめた6月の「民間コメ在庫(出荷及び販売段階における民間在庫)」は、154万トンで、対前年同月比+23万トン増となっている。過去5年間の平均144万トンとの比較においては、+10万トン多い水準となっている。

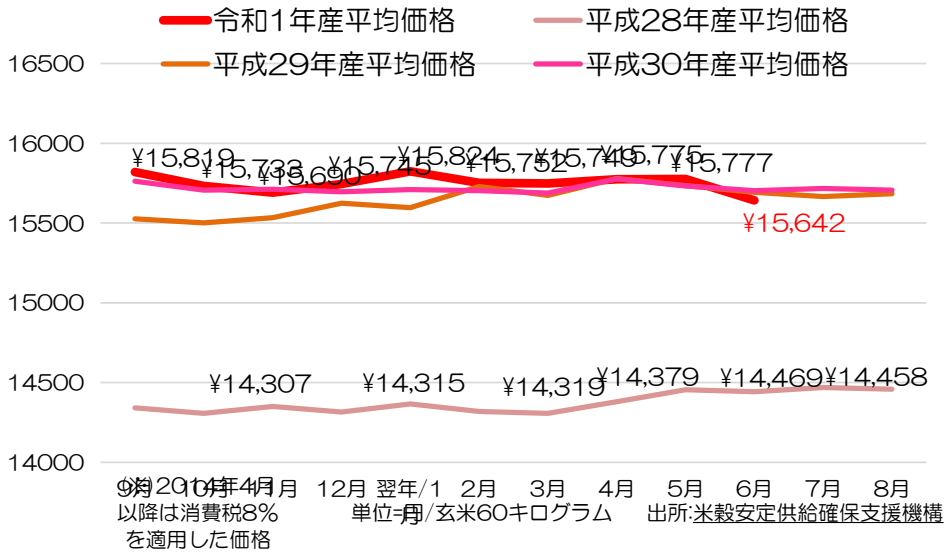
流通段階別でみると出荷段階で対前年同月比+8万トン、販売段階でプラス+4万トンである。

出所：農林水産省「コメ・マンスリーレポート」

TOPICs 相対取引価格は下落中

コメの相対取引価格の推移

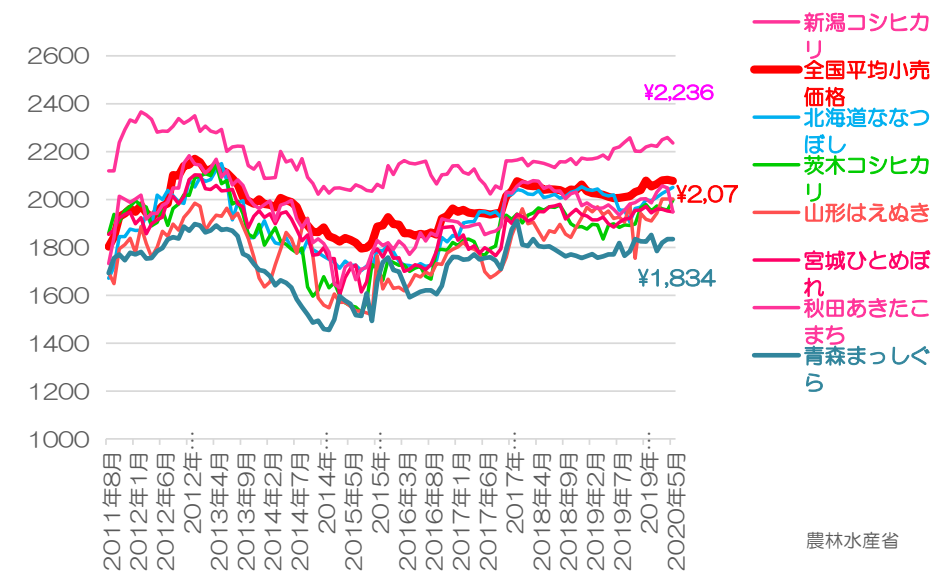
(出荷業者の全銘柄・平均価格)



農林水産省がまとめた6月の相対取引価格は15,642円に前月から▲135円下落。この3年で、最も安くなった。

TOPICs コメ小売り価格も小幅に下落

5kg入りコメ小売価格の全国平均価格

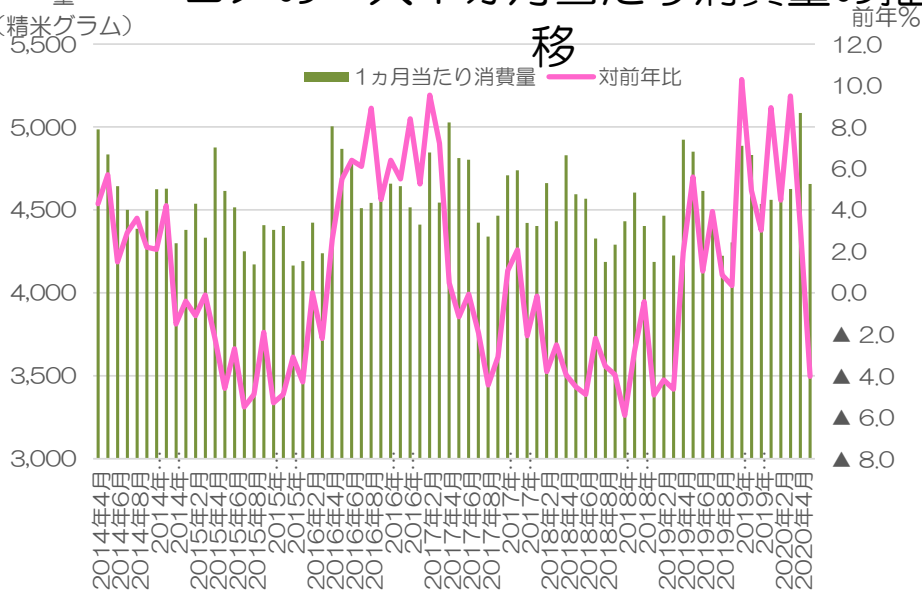


5kg入りコメ小売価格の全国平均は前月比▲4円安の2,078円。

最も高い新潟コシヒカリは2236円、最も安い青森まっしぐらは、1,834円だった。

1ヵ月当たり消費量
(精米グラム)

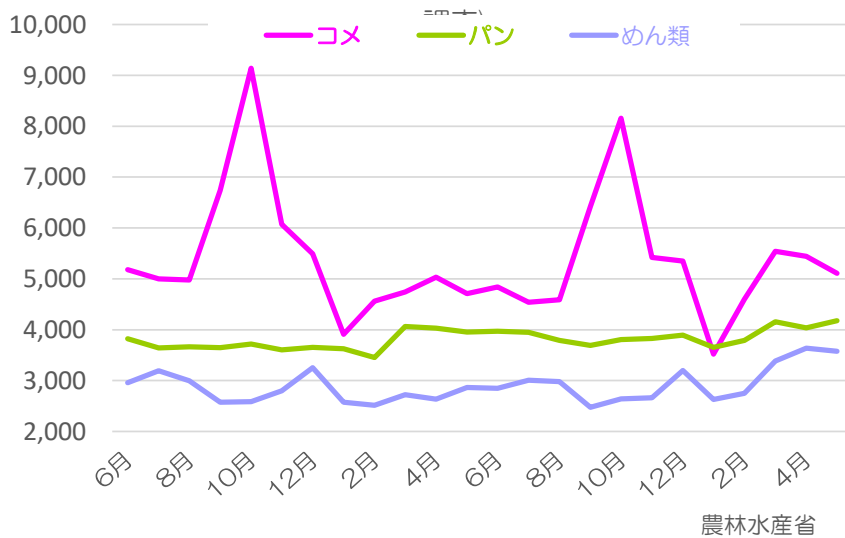
コメの一人1ヵ月当たり消費量の推移



農林水産省がまとめた6月の「米の1人1ヵ月当たり消費量の推移」は、4,656グラムで、前年同月比▲4.0%減と13ヵ月ぶりに減少となった。

TOPICS コメの1人当たり消費量は13ヵ月連続で増加していたものが減少に転じた

単位=グラム コメ・パン・めん類 購入数量/月 (家計)



農林水産省がまとめた「コメ・パン・めん類の月当りの購入数量」によると、5月は、コメが5,540グラムで、前年比+8%の増加となった。パンは同+6%の増加、めん類は+25%の増加。コメの前月比はこの月を含め4ヵ月連続のプラスとなって

TOPICS 早場米の店頭価格 by 日本経済新聞 8月21日

2020年産の早場米がスーパーなどの店頭に並び始めた。8月中旬の宮崎県産のコシヒカリが前年同時期比0.4~0.8%安いなど、価格は前年と横ばいかやや安い銘柄が目立つ。新型コロナウイルスによる飲食店の不振などでコメの全体需給が緩んだことが反映された。一方、家庭消費は底堅く、店頭価格は小幅な下げにとどまった。

全国の小売店のデータを集計する日経POS情報で、複数の大手卸経由の宮崎産早場米（5キロ袋、税別）の平均価格を調べた。8月10~16日の週は前年同時期比0.4~0.8%程度安い1770~1830円前後だ。7月下旬には同3.5%安い商品もあった。

首都圏のあるスーパーでは、5キロ袋の定価が前年比100円安い1880円（税別）。8月に入って特売をかけ、さらに100円安くしている。

宮崎県のJAグループが早場米を農家から買い取る価格は19年まで5年連続で上がったが、20年産は4%程度引き下げた。出回り当初の買い取り価格は60キロ（1俵）あたり1万4600円程度だったが、その後段階的に引き下げ、8月は1万3000円台が中心だ。

コメの需給は緩い。端境期である6月末の民間在庫は201万トンと4年ぶりの高水準にある。コロナ禍で外食需要が低迷。在宅需要で家庭用米の販売は前年を上回るが、業務用米の減少をカバーしきれていない。今後徐々に出回り始める千葉県産の早場米の店頭価格も安くなりそうだ。ある県内農協は生産者に仮払い

今後の見通し

7月末に15,350円まで回復した新潟コシヒカリは、再び下落して14,690円となっている。新型コロナウイルスの影響もあり、需要が減少して、店頭小売価格は横ばいか少し弱くなっている。今後新米が収穫されて出回ることになれば、一層の価格下落となるものと思われる。新型コロナの影響で今後外食や飲食の見送りが起これば、業務用のコメの需要は更に落ち込み、供給増と需要減による影響が市場を動かすかもしれない。

掲載される情報は株式会社コモディティー インテリジェンス（以下「COMMI」という）が信頼できると判断した情報源をもとにCOMMIが作成・表示したのですが、その内容及び情報の正確性、完全性、適時性について、COMMIは保証を行なっており、また、いかなる責任を持つものでもありません。

本資料に記載された内容は、資料作成時点において作成されたものであり、予告なく変更する場合があります。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はCOMMIに帰属し、事前にCOMMIへの書面による承諾を得ることなく本資料およびその複製物に修正・加工することは強く禁じられています。また、本資料およびその複製物を送信、複製および配布・譲渡することは強く禁じられています。

COMMIが提供する投資情報は、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行動を勧誘するものではありません。

本資料に掲載される株式、債券、為替および商品等金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情勢などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。

本資料は、投資された資金がその価値を維持または増大を補償するものではなく、本資料に基づいて投資を行った結果、お客様に何らかの障害が発生した場合でも、COMMIは、理由のいかんを問わず、責任を負いません。

COMMIおよび関連会社とその取締役、役員、従業員は、本資料に掲載されている金融商品について保有している場合があります。

投資対象および銘柄の選択、売買価格などの投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

発行元：



株式会社コモディティー インテリジェンス
〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町1丁目11-3-310
会社電話：03-3667-6130 会社ファックス 03-3667-3692
メールアドレス：kondo@commi.cc